

あのダム・このダム

中央技術(株)

三品智和



1. せわしい旅

いまなお暇を見つけては全国を旅し、川・ダム・土木遺産などを見続けている。その旅の行程はとにかくせわしい。時間の許す限り、より多くの目的地に行き見聞を広めることを重視している。一般の観光と違ってゆとりが一切無いのが我が旅である。しかし、せわしいながらも自身の記憶に留める工夫をしている。一つは事前に地域の地形地質を頭に叩き込むこと、もう一つは川の上流もしくは下流から一連で見ることである。川を横断して見ると地先の様相が変わるため、あとで記憶が薄らいでしまうのだ。これまで訪れた川・ダム・土木遺産は、それぞれ50水系（1級水系）、ダム：約200基、遺産：50程度であるが、ここでは印象に残ったダムをいくつか紹介する。個別の詳細については、HP等を参照されたい。

2. あのダム・このダム

(1) 美しいダム：白水ダム・豊稔池ダム・河内ダム

白水ダム（大分）：大分麦焼酎二階堂のCMにも採用されており、知名度は高い。堤体全幅の流れを直下から見る事ができる。しぶきをあげ流れる様相はまさに白水。このしぶきが堤体保護に役立っているが、気に掛ける人は少ないだろう。

豊稔池ダム（香川）：水の確保が難しい土地柄である香川にとって、ため池とダムの役割は大きい。ハイダムの建設が難しい地域ながらも存在感を持つのがこのダムである。外観はヨーロッパの古城を彷彿させ、風化したコンクリートがさらに風格を増している。

河内ダム（福岡）：八幡製鉄所の繁栄に一役買ったのがこのダムである。構造別では重力式に属するが、堤体面は総石積みである。当時、北九州市に前泊し、単身で早朝から積雪のなか訪れたが雪化粧したダムが印象的だった。

(2) 見上げられるダム：浦山・奈川渡・高瀬ダム
ダムの直下は谷底や発電所などがあり、一般の立入を禁止しているダムが少なくない。しかし、

私自身ダム直下からの眺めが一押しだ。それを叶えてくれるダムがいくつかある。

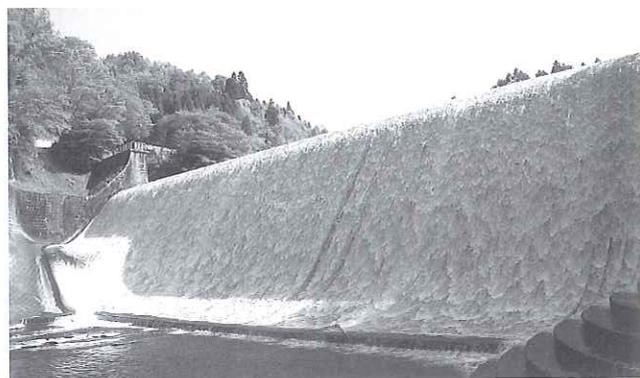


写真-1 白水ダム（大分県）



写真-2 豊稔池ダム（香川県）中央に妻

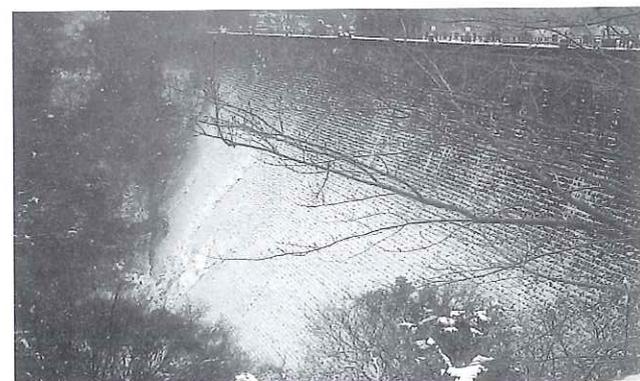


写真-3 河内ダム（福岡県）

浦山ダム（埼玉）：重力式ならこのダム。156mの堤高は全国6位であり、しかも階段付きで自力での昇降も可能である。また、堤体内部の見学が可能であり、まさにダムマニア必見である。

奈川渡ダム（長野）：アーチダムを真下から見せてくれるダムは極めて少ない。アーチ故に急峻な谷地形に建設されるため、直下は谷底が多く関係者しか見ることのできない未知の世界。しかし、東電のテプコ館（現在は閉鎖）はこれを叶えてくれた。アーチ独特のオーバーハングが魅了的である。

高瀬ダム（長野）：ロックフィルの堤体を車でのぼったのはここだけ。全国2位（黒部ダムに次ぐ）の堤高176mを誇る堤体を堤尻から間近で見せてくれたテプコ館に感謝。（こちらも現在は閉鎖）。

(3) 珍しいダム：丸沼・西山ダム

丸沼ダム（群馬）：数少ない格子状のバトレスダム（画像はHPで検索）。その複雑さ故に今後建設されることはないだろう。西山ダム（長崎）：遺産保護のため、ダム直下に新規のダムを建設。近場で2基同時に見ることができるのはここだけかも。

(4) 道のりが困難なダム：酷道265号沿いのダム

国道といえども酷道がある。宮崎県の一ツ瀬川から耳川への峠越えの国道265号はまさに酷道であった。車一台が通れるほどの断崖の山道を延々と4時間走り、ようやく上椎葉ダムに着いたかと思えば落石が発生した。下流への主要道は通行止め、迂回路を余儀なくされた。未だにダムよりも緊張の連続だった酷道の方が強く記憶に残っている。他にも井川ダム（静岡県）でも同様の経験をした。こちらは妻が車酔いし、さらに上流の畑薙第1・第2ダムは断念した。いつか再アタックしたい。

3. おわりに

最近では土木遺産巡りに力を入れている。先日は久々近畿地方へ遠征した。メンバーも妻以外に子供2人が増えた。今後もフルメンバーで精力的に見聞を広めていきたい。



写真-4 浦山ダム（埼玉県）

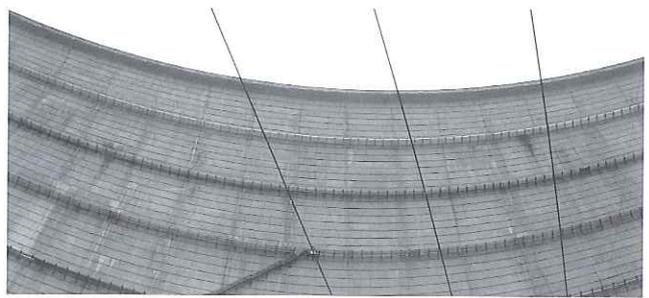


写真-5 奈川渡ダム（長野県）

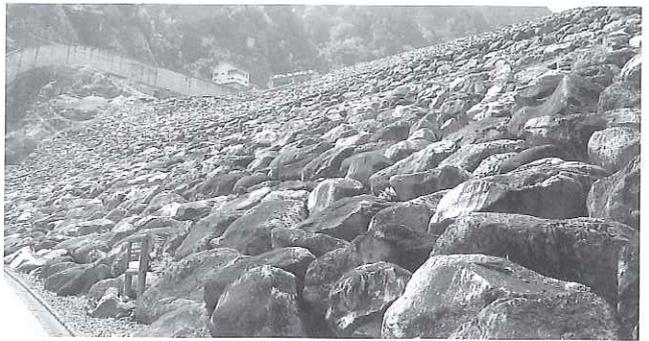


写真-6 高瀬ダム（長野）



写真-7 西山ダム（長崎県）左：新ダム、右：旧ダム



写真-8 オランダ堰堤（滋賀県）と旅のメンバー

略歴

1976年 福島県相馬市に生まれ、高卒まで過ごす。
2001年 千葉工大院を卒業し、中央技術に入社。
2007年 宇都宮大学院に入学し、博士(工学)取得。
現在、同社の企画開発室 主任
保有資格：博士、1級土木技術者（土木学会）等々